



バリ島「ガルンガン」&花巻市「花巻祭り」

岩井, 正浩 ; 磯貝, 佳菜子 ; 伊東, 涼香 ; 伊原, 未紗 ; 岡田, 普惠 ; 栗山, 覚 ; 高松, 彩夏 ; 原, 麻子 ; 日吉, 直行 ; 増木, あゆみ ; 三原, 匠子

(Citation)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 2(1):173-184

(Issue Date)

2008-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81000820>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000820>



バリ島「ガルンガン」&花巻市「花巻祭り」

Investigation of Galungan at Bali island and Hanamaki festival at Hanamaki city
2007

岩井正浩* 磯貝佳菜子** 伊東涼香** 伊原未紗**
 岡田普恵** 栗山 覚** 高松彩夏** 原 麻子**
 日吉直行** 増木 あゆみ** 三原匠子** 村上 しほり**
 吉田美聖** 山田 さよ子***

Masahiro IWAI Kanako Isogai Suzuka ITO Misa IHARA
 Yukie OKADA Satoru KURIYAMA Sayaka TAKAMATSU Asako HARA
 Naoyuki HIYOSHI Ayumi MASUKI Syoko MIHARA Shihori MURAKAMI
 Misato YOSHIDA Sayoko YAMADA (TA)

要約：本稿はインドネシア・バリ島で2007年6月下旬に行われたバリ・ヒンドゥ教宗教行事「ガルンガン」および芸能、同年9月上旬に岩手県花巻市で行われた「花巻祭り」の調査報告である。2007年度の『民族音楽調査論』（通年）受講者は12名、今年希望者の調査対象により2組に分かれて実施した。バリ島「ガルンガン」は授業開始まもない行事であったため、準備に追われたが、指導教官およびTAを含め10名が参加し、ジャガナタ寺院におけるバリ・ヒンドゥ教の宗教行事を調査した。また同時に開催されていた「アートフェスティバル」で、ケチャック・ダンス、チュバック、チャロナラン劇、ジョグッ・ブンブンやジェゴグ演奏の結婚式にも参加、さらにバリ舞踊のレッスンも受けるなどバリ文化を味わった。花巻市「花巻祭り」は、指導教官を含め5名が参加し、岩手県の民俗芸能「風流山車」、「神楽権現舞」、「鹿踊」を調査した。台風の影響で1日中止となったが、パレード形式で繰り広げられた民俗芸能は、「風流山車」「神楽権現舞」「鹿踊」が各々12組参加していたため、これらの芸能の把握が可能となった。

1. はじめに

『民族音楽調査論』は、1995年の発達科学部発足時に発足した3年次の通年授業として、フィールドワークの準備、現地調査、音楽学および人類学的な整理・分析を通して、「人間と音・音楽との関わり」、「なぜ人間は音楽、舞踊を表現するのか」といった根源的な課題から、風流に代表される〈見せる〉、つまりパフォーマンス・アーツとしての本質を、実際の体験を踏まえて明らかにし、報告書を作成・公表してきた。調査対象地は、ハンガリー・ポーランドなどの諸外国、沖縄をはじめとする日本各地などに及ぶ。2007年度は受講生の希望で、1つはバリ島の「ガルンガン」調査を設定した。

バリ島調査は、実は2005年に計画されていたが、突如として勃発したバリ島の爆発事件のために、自粛・中止せざるを得ない状況に追い込まれた。いわばリベンジともいえる計画であった。4月から計画を立て日時、場所の決定、そして関連機関とのコンタクトなど、分担した活動が4月からスタートした。インターネットからの

情報の取得や、直接現地との交渉など、多岐にわたる困難な作業を積みかさねてきた。

もう1つである「花巻祭り」は、台風接近中、祭りが一日中止となり2日目から実施された。フィールドワークは常に天候、住民の不幸の発生などで中止や延期、またアクセスが確保できないといった突発的な状況に左右される。昨年沖縄県多良間島も祭り自体には影響が無かったが、台風接近で1日早く島を離れなければならなかった。ちなみに2007年の多良間島「八月踊」は、大型台風に見舞われている。

2つの調査日程は次の通りである。

(1) バリ島「ガルンガン」参加者・日程

岩井正浩, 磯貝佳菜子, 伊東涼香, 伊原美紗, 栗山覚, 高松彩夏, 原麻子, 村上しほり, 吉田美聖, 山田さよ子

* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
 ** 神戸大学大学院発達科学部3年生
 *** 神戸大学大学院人間発達環境学研究科前期課程

(2008年4月1日 受付)
 (2008年9月1日 受理)

表ー 1 「ガルンガン調査日程」

	午前	午後
6/24	関西国際空港 発	ングラライ空港 着
6/26	バリ舞踊レッスン ジャガナタ寺院参拝	バリ伝統芸能鑑賞 アートフェスティバル調査 ケチャ・チャロナラン
6/27	ウブド市内調査 ・王宮 ・民芸品店 ・市場	ネカ美術館 結婚披露パーティー ・ジェゴグ・パリス ・トベン ・ジョゲブンブン
6/28	ガルンガン調査 (寺院参拝) ・バトゥカル寺院 ・ブサキ寺院	ガルンガン調査 (ウブド) ・ワヤン・クリッ ・レゴン
6/29	バリ島 発	関西国際空港 着

(2) 花巻市「花巻祭り」参加者・日程

岩井正浩, 岡田普惠, 日吉直行, 増木あゆみ, 三原匠子

表ー 2 「花巻祭り調査日程」

9/6 (木)	12 : 50 14 : 00	伊丹空港発 仙台空港着
9/7 (金)	8 : 00 10 : 45 13 : 30 16 : 00	仙台駅発 花巻駅着 郷土芸能祭調査 宿着
9/8 (土)	10 : 20 14 : 00 23 : 00	花巻駅着 花巻祭り調査 宿着
9/9 (日)	7 : 55 16 : 00	宿発 伊丹空港着

7日は台風のため花巻祭りは中止。

2. バリ島「ガルンガン」(Galungan at Bali island)

(1) バリ島(Bali) 概要

・地理・気候

面積 5,633 平方キロメートル。アルプス・ヒマラヤ造山帯に属する小スンダ列島の西端に位置、大スンダ列島に属するジャワ島に接している。西にバリ海峡を挟んでジャワ島、東にロンボク海峡を挟んでロンボク島と一列に島が並んでいる一部。バリ海峡の最も狭いところは 3km ほどと近い。アグン山 (3,142m)、バトゥール山など多くの火山を有しバトゥール山近辺には温泉も湧出している。バリ島と付属の島で、インドネシアの第一級地方自治体 (Daerah Tingkat I) であるバリ州を構成する。

気候はサバナ気候であり、雨季 (10 月～ 3 月) と乾季 (4 月～ 9 月) の区別が明瞭である。

・言語・宗教

バリ語。放送などは公用語のインドネシア語であり、子どもたちは小学校入学前からこれを学ぶため、ほとんどの住民がインドネシア語を使える。

宗教はバリ・ヒンドゥが主流、ただキリスト教徒、イスラム教信者もいる。伝統的なバリ人はヒンドゥ教に属し、バリ・ヒンドゥと呼ばれる独特な伝統を持っている。宗教的な活動に多く時間を使い、

祭事が頻繁に行われているため、毎日どこかで祭を見ることができる。また、観光事業を目的としてジャワ島から移って来ている人も多く、イスラム教徒が増えている。周辺地域での宗教は、西に隣接するジャワ島や、東に隣接するヌサ・トゥンガラ州もイスラム教徒が多い。ただし、ロンボク島のササック族などにはキリスト教徒も多い。

・農業

バリ島は、以前は砂漠の島だったと言われ、島の中央の山に湖があるものの、水は全て北側に流れて行き、南側は乾燥していた。この湖の水をトンネルを掘って南側に導き、水量を計算通りに振り分け、島の南側全体を緑あふれる土地に改造した。米は二期作・三期作が可能である。農民は朝夕それぞれ 2、3 時間働くと、その日の残りは絵画、彫刻、音楽、ダンスなどの芸術的な創作活動に当てており、バリは芸術の島として世界的に知られるようになった。

・交通

航空路としてデンパサール国際空港が島の南部にあり国内外と結んでいる。島内には鉄道はないが、主要地を結びながらほぼ海岸に沿って一周する道路がある。内陸部は島の大部を占める南斜面の河川が南北に深く谷を刻んでいるため、道路が南北には発達しているが、東西の道路はあまりない。住民の主たる交通手段は原動機付バイクである。また、冷房付きのバスが毎日数本観光客向けに運転されており、島内の観光地を結んでいる。デンパサール周辺にはメーター付きタクシーがあるが、チャーター車はメーター付きでないタクシーである。料金は乗車時に交渉する。オジェックというバイクタクシーもある。私たちは 2 組に分かれて主にチャーター車を、ホテルを通した交渉によって 1 日単位で利用した。メーター付きタクシーも 物価も日本の金銭感覚で見ると驚くほど安い。

・生活・観光

バリ人は精神的に満足した人々が多いといわれる。ヒンドゥ教の教えや風習はかなり色濃く残されており、店や家の前には毎朝チャナンと呼ばれるお供えをする。バリでは祭りが頻繁に行われている。バリ人にとっての祭り (Upacara ウパチャラ) とは宗教的な儀式であり、現在の日本人がもつ祭りのイメージとは異なる。現在のバリでは西洋文化は巧みに取り込まれており、西洋の文化と独自のヒンドゥ教文化が混在する島となっている。

近年は物質文明・近代文明から逃れ西洋人や日本人がバリに長期滞在しバリ文化を学ぶケースも多く、絵画、音楽、彫刻、ダンスなど自分達独自の芸術的活動をしている。最近ではサーフショップやサーフガイド、又はサーフィン関連のスポンサーから収入を得ているプロサーファーも多い。

芸能・芸術の島として認知され、かつ早くからビーチリゾートが開発されてきたため、世界的な観光地となっており、島の貨幣経済は観光収入で成立している。物価水準がかなり低廉であるため、東南アジア各地のビーチリゾートのモデルとなっている。

山側のリゾート地にウブド (Ubud) 村がある。ここでは、質の高いバリ舞踊やバリアート、パティック等の染色技術、竹製の製品等、伝統的な文化や民芸品を見ることができる。

バリ島では、バリ・ヒンドゥの人々が住む村々でバンジャールと呼ばれる、いわゆる相互扶助組織が発達し、この組織に属することで小さい頃から隣人との助け合いの心を身につけているなど、住民

の性格は大変温厚である。また、インドネシア政府も観光収入を確保するため治安の維持に力を入れており、衛生面も観光客には問題のないレベルを保っている。島には、仏教系の遺跡も多い。ただ、先進国の裕福な観光客への反感や、異教徒に対する反発からイスラム過激派による国際テロが観光業に少なからず影響を与えている。

(2) ガルンガン (Galungan)

『ガルンガン』とはバリの迎え盆のことである。この10日後に、送り盆に相当する『クニンガン』(Kuningan)が行われる。この両日はバリ人にとって重要な祝日である。ガルンガンは、迎え盆であると同時に、全ての神様に感謝の意を捧げる日でもあり、先祖が家に帰るように、神様が寺に帰ってくると言われている。

バリ・ヒンドゥー教のウク暦に基づき、210日に1度このガルンガン・クニンガンが巡ってくる。ガルンガンは3日間あり、私たちがバリを訪れた2007年は、前日祭のプナムパハン・ガルンガンが6月26日、ガルンガン当日が27日、後日祭のマニス・ガルンガンが28日であった。一般的に、祭りの前日には飾りを作り、当日には氏神を奉り、村の寺にお参りをする。そして後日には、親しい友人や親戚に会いに行き、散歩などをして一日をゆっくりと過ごす。この間、仕事は休みであり、都市部で働く人々は実家に帰省する。また、多くの店舗が閉められているが、観光地では閉店していない店も少なくなかった。

・街の装飾

バリの祝祭は、装飾が鮮やかで、ガルンガンの前日には町中が様々な飾りで彩られていた。チャナンと呼ばれる笹の葉の器に、バナナや米、花を入れた毎日捧げられるお供え物や、バンタンという豪華なものがたくさん作られ、あちこちの路上に供えられていた。

また、ガルンガンの3・4日ほど前には、人々はペンジョールと呼ばれる椰子の葉や花で飾りつけをする。高い竹の棒を、家の門の前に立てるのは、これを目印に祖先の霊が戻ってくるからであると言われている。ガルンガンは特に山の神様に感謝を捧げる日で、ペンジョールは、山の神である竜が、お供え物を食べようとしている様子を表した形である。お供え物の台も、白と黄の布と、笹などで作った色とりどりの飾りで装飾されていた。バリ島では、白は「神聖」、黄は「真実」を意味する重要な色であり、祭りや、神に捧げる踊りの衣装など、祝い事のときには必ず用いられる色である。日本でも、正月にしめ縄の飾りを車につけるように、バリでもガルンガンの日は車に笹で作った飾りを付けているのが見られた。

・寺院への参拝 (写真6)

ガルンガン当日、人々は朝早くから起きて沐浴し、正装して寺院にお祈りに行く。午前中に近くの寺に、時間があれば大きな寺院へと行くそうである。この日は、参拝の行き帰り、普段は許可されない原動機付バイクのヘルメットなしで2人乗りも許されるとか。

まず、寺院に入るため、男女とも正装をする。女性の場合、上半身には袖付きのブラウス(クバヤ)、下半身には腰布(カマン)を着け、腰には帯(スレンダン)を巻き、髪を1つにまとめるのが一般的である。男性は、上半身には袖付きのシャツジャケット(サファリ)を着て、下半身には腰布(カマン)を巻いた上に腰巻き(サプツ)を巻いてから帯(スレンダン)で締める。頭にはウダンと呼ばれるはち巻を着用する。祭りの正装の、頭にかぶる帽子は山のシンボル

で、腰に巻く長い布は波を表現した海のシンボルである。

善と悪が存在し、双方がバランスを取っているという世界観のバリでは、寺院にも善を祭った祠と悪を祭った祠の両方があり、どちらとも同じように人々が参拝し、お供え物を置いていた。祠は白と黄の布と、白黒のギンガムチェックの布で飾られている。神聖と真実の意味を表す白と黄の組み合わせはおそらく、日本で言うところの、紅白の組み合わせに近い感覚なのではないだろうか。また白と黒のギンガムチェックの布は、寺院やケチャの男性の腰巻きなどにもよく見られる。この白黒のチェックも善悪を表し、双方が自然の中でバランスを取り合いながら存在しているというバリの二元論的世界観を象徴的に表現している柄である。

私たちは、バリでも有名なジャガナタ寺院(Pura Agung Jagatnatha)にお参りに行った。ガルンガンの期間は観光客用に参拝ツアーが設けられており、そこで衣装を借り正装することができる。正装に着替えた後、洗い場で頭部と手を洗い、神殿で祈りを捧げる。そこでは男性の司祭たちが祈りを捧げた後、座っている参拝者たちに聖水を降りかける。聖水が捧げられると人々は祈りながら手に持っていた花を散らし、米を頭上から散らし、額に張り付ける。米は生米なのでなかなか額につきにくく、乾燥するとすぐに落ちてしまった。ガルンガンの日には通りで聖獣パロンの獅子舞をよく見かける。男性が二人で操作するもので、日本の一般的な獅子舞に類似していた。ちなみに、聖獣パロンの宿敵である魔女ランダも、日本のなまはげに類似していて興味深い。(高松彩夏)

(3) バリ伝統芸能鑑賞 (アートフェスティバル)

①アートフェスティバル

アートフェスティバルとは、毎年6月中旬からデンパサール(Denpasar)のアートセンターで行われるフェスティバルのことである。2007年で第29回目を迎え、6月16日から7月14日まで開催された。バリ島やインドネシアの伝統的な芸能や舞踊、ガムラン音楽などが公演され、また食べ物の屋台(ワルン)が軒を連ねている。テントには絵画や生活用品、衣類やアクセサリーが手ごろな価格で販売されている。入場は無料。

[2007年6月25日のアートフェスティバルのスケジュール]

Tradition Arts From Tabanan Regency

10:00~ Wantilan Stage

Joged Bumbung Social Dance Performance From Tabanan Regency

12:00~ Ayodya Stage

Cak Creation and Genjek Arts From Gianyar Regency

20:00~ Wantilan Stage

②ケチャック・ダンス (Kechak Dance) (写真3)

ケチャック・ダンスとは元々、火山噴火や飢饉の時に災害から厄逃れをするために行われていた村の宗教的行事である。村の人々が一斉に一種のトランス状態になることで、絶対者である神に近づこうとしたものである。元々はサンヒヤンと呼ばれており、形式は3種類ある。

私たちが実際に見たのは、6月25日にアートセンター内で行われていたケチャである。現地高校生を中心としたもので、伝統的な

ケチャとはかなり異なったものであった。男女の絡みが多くあり、社交ダンスのように身体を交差する場面が多く見られた。また、中盤にはバリ舞踊のようなダンスも披露され、全体的にかなり現代的にアレンジされていた。(吉田美聖)

③チュバック (cupak)

チュバックは音楽と舞踊と歌と語りで物語を進めていく音楽舞踊劇で、現地の公演パンフレットなどには内容がわかりやすいように「オペラ」と説明されていた。アートセンターの敷地内には吹き抜けの舞台が多く、昼間は照明などを付けずに劇場内に差し込む太陽光の明るさで劇が上演されていた。ガムランは総勢 20 名ほどで、舞台側面の客席にオケピットを作っていた。パフォーマーは舞踊と歌と語りを使い分け、歌と語りの発声法はバリ特有のものである。舞踊は体幹部を固定させて適度に膝を曲げた基本姿勢を保ったまま動き出したリステップを踏んだりしていた。その所作は明確に型が決まっています、バリで行われている舞踊には演目は違えども同じような型の舞踊が見られ、多くの共通点を見出すことができる。動作は筋肉の柔軟性というよりはむしろ胸骨や肩甲骨、背骨といった骨がよく動いている印象を受けた。つまり関節が柔軟なのである。重心は低めに保ち、「踏む」ということがとても重要なステップで、大地に向かって踊っているように思われる。指の一本一本の位置まで決まっているので、よいダンサーほど指先まで意識や集中が行き届いていて、それがはっきりとわかるほどであった。

ガムラン奏者はダンサーの動きや科白がきっかけとなって音を出すので、奏者は注意深くダンサーの所作を見ていた。劇の最後には 1 人のパフォーマーが異様な雰囲気でのたうちまわり、聖水らしきものをかけられて介錯人に運ばれていったが、これがトランスであるかどうかは不明である。(栗山寛)

④チャロナラン (Calonarang)

④- 1. ステージについて

野外ステージで屋根はない。ライトによる照明。左右対称の構造。役者の出入りは、バックのカーテンの開閉にて行う。バロンの登場は右手から。

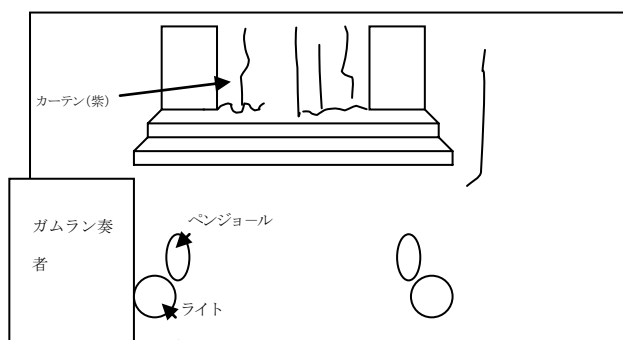


図-1 「チャロナラン舞台配置」

④- 2. 進行

はじめに、ガムラン奏者がカーテン奥から登場する。23 人。衣装はターバン、赤色の長袖上着、赤チェック腰布で裸足。全員同じ衣装を着ている。次に、白い衣装の人が 1 人登場。手に水の入った

ボールを持って、奏者 1 人ひとりに水をふりかけていく。奏者は水を手に受け、口に 3 回含む。おでこにも水をつける。ガムランの演奏開始。このときにはステージ上に演者は誰もいない。演奏は約 4 分半続く。そのあと、司会による演目紹介が続く。

次に男性の声がマイク越しに流れる。ガムランの演奏をバックに舞台右手からバロンが登場する。バロンの中には 2 人いて、足だけ見える。バロンのそばには、傘(金と銀)をもった人が 2 人と、旗のような飾りを持った人が 2 人つく。バロンが舞台で踊っている間は、舞台の左右に 2 人ずつ別れて、ひざを付いて座っている。ガムランの華やかな演奏をバックにバロンが踊る。

サルが登場。バロンをついたり、いたづらを仕掛ける。また、見せびらかすだけでバナナをたべさせない。ユーモラスな掛け合いが展開。バロンは右手へ退場し、サルは舞台のカーテン奥へ退場する。カーテン奥から女性が 4 人登場する。白と黄色の同じ衣装。布を頭にかぶりながら踊る。4 人とも退場。続いて女装した男性が登場する。おそらく、魔女チャロナラン役。きらびやかな衣装を着ている。ピンク、黄緑、紫、金糸。観客たち、主に子どもとの掛け合いを行う。

女性がもう 1 人登場する。こちらはチャロナランの娘、ラトゥナムンガリと思われる。舞台上で 2 人が掛け合い。観客の中から男性を 1 人ステージに上げて、女性と一緒に踊る。ジョググ・ブンブンに似る。これを 2 人が繰り返す。女性は退場。女装した男性はステージ上にいる。再び先ほどの女性 4 人組が登場。白い布を頭の上にかざしながら円を書いて踊る。女性 4 人組に向かって女装の男性が話しかける。4 人と科白の掛け合い。

次に、舞台裏から声だけが響く。同時にライトが落ちて舞台上が暗くなる。ランダ役の男性 1 人が登場。ランダは手に杖を持ち、長いつめを生やしている。黒、赤、白の縞の衣装が特徴的である。1 人で踊る。次に舞台上の 5 人に話しかける。5 人はひざをついて科白を聞く。次に女性 4 人はランダの周りを円を書いて回り、そのまま退場。つづいて舞台へ煙の出る小道具があがる。女装した男性とランダの 2 人が掛け合いをする。もう 1 人のランダが登場。不気味な仮面をつけている。むき出した歯、ぼさぼさの髪、醜い顔貌、白塗り、額には深い皺がある。首からは長く腸を下げて、出っ張った下腹部をしている。仮面のランダは舞台から客席に下りていく。観衆の子どもはおびえて逃げる。今度は舞台にサルが 2 匹登場。しゃがんだ状態で舞台上をうろろする。ランダがひとしきりしゃべった後に全員が退場。煙のでる小道具もしまわれる。客席から拍手。ここが劇の一区切り。

次に、ガムランの演奏をバックに、男性の声で朗唱が入り男性が 1 人登場。おそらく、クディリ国王エルランガ。耳に赤と白の花飾りをし、首周りには金と赤の豪華な飾りをつけている。服は白。腰には剣をさしている。頭にはターバン。ここで、なぜか演奏をやめてしまったガムラン奏者に王は抗議するが、奏者は演奏しない。ガムランを奏さず、歌いだすので王は怒る。王はケチャのリズムを歌ってみせ、ケチャをやれという。ここからガムラン奏者と王の掛け合いが始まり観客は沸く。ここでもう 1 人の王様登場。間の抜けた雰囲気。衣装は金と赤。ほほにほろろが書いてある。2 人で掛け合いをする。客席の子どもとも掛け合う。(深夜に及ぶため、調査はここで終了。)

④-3. 全体的な特徴

ガムランの伴奏は、劇の進行中休みなく続いている。科白によって進行するときは、演奏の音量と楽器の数が減り、逆に踊りのときは華やかで大きな音で演奏される。

観客との即興の掛け合いは特徴的であった。言葉のやり取り、それから観客を舞台に上げて踊ることがされていた。特に子どもは舞台の隅に上がって役者の服を引っ張ったりし、観客と役者の距離が非常に近い。また、役者同士の科白でも即興性が強く、娯楽を目指したつくりになっている。

役者の役どころは衣装や物腰で象徴的に描き出されている。道化役、シリアスな役どころが一見でわかる。子どもにも楽しめるようになっている。

(伊東涼香)

⑤ジョゲツ・ブンブン (Joged Bumbung)

演目：「Traditional Dance Joged Bumbung from Kuwum Marga-Tabanan」

アートセンター内で通りの脇にて踊りが行われていたため、急速時間を変更して取材を開始した。

会場は屋根が付けられ舞台を中央に、三方に客席が設けられる構造で、舞台が見やすいよう段差のついた客席は多くの観客で埋め尽くされていた。私たちは、舞台に向かって左後方から（舞台を後ろから）見る格好となった。そこでは大きな望遠レンズ付のカメラを構えたカメラマンたちがひしめき合い、会場に向かって小さな隙間からレンズを覗かせていた。舞台の裏側（後ろ側）では、踊り手たちの準備スペース（2畳程度）が設けられ、衣装や化粧を調える風景が見られた。途中から見始めたため、会場の雰囲気は非常に盛り上がっていた。

「Joged Bumbung」は、伝統衣装を身に纏った女性の踊り手が、会場にいる観客の中から1人ずつ誘い出し、2人で向かい合って、付かず離れずしながら踊る。しばらく鑑賞していると、ある男性が私たちのところへやってきて、次に踊ってはどうか、といった動作をする。栗山・山田の順で、舞台に出て踊り手と踊る。日本の参加者であることもあってか会場内は非常に盛り上がり、大きな拍手をもって迎えられた。

(磯貝佳菜子)

(4) ワヤン・クリッ (Wayang Kulit)

ワヤンは人形、クリッは皮を意味し水牛の皮を使用している影絵芝居である。ワヤンの人形遣い師ダランは、僧侶やバリアンと同様に宗教的な専門家である。

ダランは、1人でいくつもの人形を操り、あらゆる登場人物を声色で演じ分けて物語を進めていく。ダランは、古代ジャワ語であるカウイ語の知識を持ち、バリ語のあらゆる階級の言語に通じていなければならない。ダランの座るうしろには、グンデル・ワヤンが並んでいる。グンデル・ワヤンは、大小一對ずつの計4台の編成で行われる。音階はスレンドロで、2オクターブ10枚の鍵盤を備え、両手にパチを持って演奏する。「マハーバーラタ」は4台のグンデルで、「ラーマーヤナ」ではクンダン、チェンチェン、クンプールのパーカッションが加わる。スレンドロ音階は調律によって少し差がある。

白い布のスクリーンの後ろで火がたかれ、静かにガムランの音楽

が流れ出し、会場は幻想的な雰囲気に包まれた。ワヤンがスクリーンに映し出されるまで思っていたよりも長い時間がかかり、ようやく出てきたワヤンは葉っぱのような不思議な形であった。そこから始まると思いきや、1人の男の人がスクリーンの前に姿を現し、バリ語で説明を始めた。

説明が終わり、いよいよワヤン・クリッが始まった。ダランの話す言葉はもちろんバリ語で私たちには全くわからなかったが、事前に読んだあらすじで、ある程度話の流れを理解することができた。ダランの語りの盛り上がりとはガムランの盛り上がり、話の流れの盛り上がりは、言葉が理解できないながらも雰囲気を感じることができた。影絵ということで上演中はワヤンの細かな装飾などがはっきりと見えなかったが、上演が終わった後舞台裏を見せてもらうと、とても細かな装飾、鮮やかな彩色で人形だけでもすばらしい芸術品だと感じた。

(原 麻子)

(5) ネカ美術館とバリ絵画

ネカ美術館は1976年創立で館内は、休憩所を中心に6棟の展示館に分かれていた。ネカ美術館ではバリの各スタイルの絵画はもちろん、バリに関わる画家、ルドルフ・ボネ、ホフカー、ワルター・シュピース、マレーシア人作家チャン・フィー・ミンや、オーストラリア、ドイツ、日系アメリカ人などの作品も展示されている。ウブドの町の北西、緑に囲まれたロケーションに存在する。美術館の中には自然のままの空間が十分にあり、絵を眺めるだけではなくその途中にあるベンチにふと座ってみたいとなった。暑くて疲れて座る、というのではなく、その環境にある椅子が誘っているかのように魅力的だから腰掛ける。そんな穏やかな時間、空間がとても気持ちよく感じられた。

バリには伝統的に育まれた文化と、西洋や日本という外部から流入した文化が混在している。そして、それらは混ざったり残ったり、変容しながら現代に引継がれてきたと言えよう。さまざまな絵画スタイルがある中でも大きな分類となるバトゥアン・スタイルとカマサン・スタイル絵画について代表的な絵画を取り上げて、特徴をまとめてみた。

①バトゥアン・スタイル (Batuan style) 絵画

バトゥアン・スタイルと呼ばれる絵画は、バリ南部ギャニャール県のバトゥアン村で1930年代に台頭し始めた。西洋美術の影響を比較的免れたままだったこの村では、当時その地域で調査を行っていた人類学者マーガレット・ミードとグレゴリー・ペイトソンのふたりの外国人が、その絵画にわずかながら影響を与えたといえる。彼らは、社会的・文化的変化の高まりに応じて画家たちがどんなものを創り出すのかを知ろうと、画材を提供した。この時代のインク作品は、画家の、魔術・パワー・儀式との関係を反映するものだ。テーマとしては他に文学、宗教、そして舞踊が取り上げられた。

この始まりから今日まで、多くのバトゥアン・スタイルの作品は、ユニークではっきりと分かる特徴を維持している。伝統的絵画と同様に、ひとつの作品に描かれた多様な場面は物語的要素を保有している。小さく様式化された人物像が空間を埋め、西洋スタイルの解剖法は最近までたいした問題ではなかった。光と影、遠近法はわずかに使用されている。絵は暗くミステリアスな雰囲気、黒魔術や、装飾の群衆や茂みに囲まれて設定された儀式といったテーマ

によって、いっそう効果的になっている。このスタイルには年月を経て多くの変化が現れ、他の地域への広がりも見られる。近年では観光客を風刺的に描き、バリ人と彼らのユーモラスな邂逅を描写する画家たちもいる。彼らの作品は、パトゥアンの画家たちの解説によるジャーナリズム的記録とも言うべきなのかもしれない。

②カマサン・スタイル (Kamasan style) 絵画

基本的に伝統的なバリ絵画の特徴は非常に細かいことが挙げられる。描きこまれた線は数え切れないほどで、人の顔は誤魔化すことなくすべて描き込んでいる。その精密な描き方は見る側にも緊張感を持たせているように感じた。しかし、まるで縮小コピーでもかけたかのように細かいことには意味があるのか、と疑問に思い聞いてみると、細かく描くことによってその絵に神が宿するという、明確な思想のもとに行われているらしいことが判明した。

また、カマサン・スタイルは伝統的な影絵劇であるワヤン・クリップのスタイルを継承した画法であるといわれている。西洋人がもたらした技法やスタイルが生まれるまでの間、バリで唯一の絵画様式であった。現在、クルンクンの郊外にあるカマサンにこのスタイルの画家のアトリエがあることから、カマサン・スタイルと名付けられている。天然の草木から抽出した肌色・黄・赤・青・茶の伝統的な5色に加えて、白と黒の7色の絵の具のみで木綿の生地に描かれている。伝統的な絵画のテーマはマハーバーラタ、ラーマヤナというヒンドゥー教の古代叙事詩を題材としたものが多い。

③イ・ニョマン・ルス「バリの生活」(写真1)

これはウブド・スタイルという30年代に興った、踊り・儀式・風景・市場の様子など、バリの日常生活を遠近法や陰影を使って描くスタイルによって描かれている。パトゥアン・スタイルよりも色数が少ないが、地域の近さからか、ほぼ同じ特徴を持ったスタイルだといえる。

この作品は、絵を描く工程の気の遠くなるような時間の長さを示すために未完の状態にしてある。描かれている情景の中に、意識されていないものなど何もないと解説には書かれていた。絵の描かれ方は何段階もの作業を要している。まず構成が最初に練られ、大雑把なスケッチの後に細部の描写が鉛筆で注意深く描かれる。そして、墨を使って正確かつ繊細に線画がトレースされている。次に薄い墨で濃淡をつけ、水で薄めたアクリル絵の具が半透明調に重ね塗りされる。このようにして、彩色が次第に仕上げられていく。一番明るい部分には白色を最後に加えている。

ちなみに、バリの生活の典型的なテーマは、漁、川石の採集、物売り、闘鶏、機織り、そして火葬儀礼に使われる霊柩塔と雄牛型の火葬棺だという。日本ではあまり見かけない闘鶏などのテーマがバリでは身近であることから、2国間の生活文化の違いを感じた。

独特な表現方法を持つこれらのスタイル。他にも時代や地域ごとに描かれ方がまったく違う、近年の画家の作品や海外から移住してバリを描いた西洋人の作品など、さまざまな絵画がネカ美術館には収蔵されていた。それらと見比べた際に、やはり伝統絵画は如何に奥が深いものかが感じられた。伝統絵画の表現方法について言えることは、確かな型があり、長年の修練において培われたデッサン力によって描かれているということだ。現代の日本画においても、それは同様だ。新たな題材や表現を探索していても、確実に失ってはならないものは、描く力だと思う。優れたデッサンの能力こそが伝

統絵画の今後の発展を支えるものではないだろうか。

このように美術館を実際に訪れてみると、それまでバリ絵画と一括りに見ていた絵画も、実際には流派・スタイルがあることがよくわかった。また、絵画や彫刻は滞在中に様々な場所で日常的に目にすることが多かったのも、美術館で知ったことを生かしてさまざまなものを見ることができてよかったと思う。(村上しほり)

(6) 結婚式

私たちが招待を受けた「結婚おめでとうパーティ」は、光森史孝氏の経営するビラ「ビラ・ビンタン」(Villa Biatang)の庭で行われた。新郎新婦ならびに御親族の方々と正面中央に、ジェゴグ(Jegog)が正面に向かって右側に、私たち調査メンバーは左側といった配置で、真ん中の庭では踊りが披露された。私たちは一列に並んだテーブルに席をとり、参加させていただくとともに取材を行った。参加者はバリの伝統衣装に身を包み、料理も進行も全体的にバリの香りが漂う結婚式であった。ただ新郎新婦は日本人だったので、途中ケーキ入刀や挨拶が行われるなど、バリの様式と日本の様式が折衷される形で進んだ。

会場に立てられたテントの柱部分には飾りが付けられ、また中央の踊りの庭の真ん中には、バリのどの軒先にも毎朝置かれるというお供え物がある。ジェゴグ奏者は総勢20名で構成され、主旋律を奏するのはスリン(Surin)で、リズムは太鼓と小さな銅鑼である。

- ①ジェゴグのリズムが流れる中、新郎新婦、ご親族、舞踊の方々が入場し席に着く。
- ②歓迎の踊りⅠ：黄色い衣装を身に纏った女の子5人による「歓迎の踊り」。彼女らは小学低学年から中学生ぐらいで、ジェゴグの演奏に合わせて踊る。化粧や衣装はもちろん、踊りや表情は非常に美しく、あどけなさや相まって、とても愛らしい印象を持った。戸外に設置された会場であるため、足元は芝であったが踊り手は裸足で舞っていた。
- ③光森氏により参加者の紹介が行われ、調査メンバーからもお祝いの言葉を述べさせて戴いた。
- ④バリの地ビールをグラスに注ぎ、乾杯。
- ⑤新郎新婦によるケーキカットと、パビ・グリーン(豚の丸焼き)のカットが行われた。
- ⑥会食、懇談(約30分)：食事はバイキング形式で、全体的に非常に辛く刺激的な味付けでバリ独特の香りを楽しんだ。お祝いの歌。
- ⑦歓迎の踊りⅡ：女性3人による歓迎の踊り。先ほどの「歓迎の踊りⅠ」の踊り手よりも少し年齢が高い。衣装は紫の巻きスカートに、マントのように巻かれた黄色いスカーフが印象的で、頭には金の冠のような飾りをかぶる。スリンのメロディが耳に残る。彼らは、前半は伝統衣装に身を包んでいたが、上着をオレンジ色のTシャツに着替え登場。また、退場の際にはジェゴグのリズムのスピードが上がり、踊り手は速やかに退場していく。
- ⑧バリス(Baris 戦士の踊り)：小学校5年生の男の子1人による踊り。太鼓のリズムによりバリスが登場し、ジェゴグで踊り、また太鼓のリズムにより退場する。キレのある動きと、見開いた目の表情は大人顔負けの演技であった。衣装・化粧も原色使いで、頭には大きな冠をかぶっている。
- ⑨トベン(Topeng 仮面舞踊)：滑稽な仮面を付けたトベンが登場。

日本のヒョットコを思わせる表情の仮面に、コミカルな動きが印象的。トベンがしばらく踊った後、岩井先生も誘われ、それぞれ仮面を付けて踊り新郎新婦を祝う。退場の際には、胸の前で合掌し一礼する。

- ⑩ジェゴグ「鳥の歌」：ジェゴグのみによる演奏。竹を叩くマレットを両手に持って頭の上に上げ、歌を歌うフレーズがある。ジェゴグのみの演奏をじっくり聴ける贅沢な時間となった。
- ⑪ジョゲツ・ブンブン：ジェゴグの演奏を背景に、伝統衣装を着た女性の踊り手が登場し、参加者を1人ずつ順番に誘い出し、2人で向かい合って踊る。途中、踊り手の女性が替わり、再び参加者と順番に踊る。退場の際には、胸の前で合掌し一礼する。
- (写真4)
- ⑫ジェゴグ《終わりの曲》＝ジェゴグのみによる演奏。
- ⑬新郎新婦あいさつ。
- ⑭新郎新婦からご両親への花束が贈呈される。これは日本の形式を採用。
- ⑮新郎の父による挨拶により、式が締めくくられる。その後、ジェゴグの奏者や踊り手たちと、写真の撮影会が行われた。(写真5)
- (磯貝佳菜子)

(7) バリ舞踊体験：・教わったダンス：「ルジャン・デワ」

(REJANG DEWA) (写真2)

祭礼の際、寺院の中の神聖な場所で踊られる、純粋な奉納舞踊。バリ舞踊は、その儀式性の高さにより＜ワリ＞・＜ブバリ＞・＜バリバリハン＞という3つのカテゴリーに分類できるが、「ルジャン・デワ」は＜ワリ＞に当てはまる、最も儀式性の高い舞踊。本来は初潮前の少女たちにより踊られる踊りで、振り付けも村々により異なる。スレンダンという長い紐を腰にまいて、黄色い衣装で踊る。

・動きについて：基本的な動き

- ①チュンチ (CENGKED) …スクワットのような動き。腰をそらせて地面と大腿が平行になるくらいまでしゃがむ。
- ②スルデ (SELEDET) …目線と顎を同じ方向へ向ける。片手を前へ、もう一方の手を斜め前の高い位置へ伸ばし、両手とも第二指をたてて、指先を目で追う。
- ③ングッサー (NGISEH) …肩関節を、肩甲骨ごとぐるぐる回す。腕は90度の位置まで上げておく。
- ④ンゴタ (NGOTAK) …首を左右に振る。歩くときなどに行う。右アガム(アガム・カナン/NGAGEM KANAN)。左腰を出して、右足重心でこのポーズをとる。逆が左アガム。

・基本姿勢

足は常に親指をあげた状態でキープして、手は親指を折って他の指はぴんと伸ばす。腰は中腰キープ。腕は下げずに常に上腕が肩の位置にくるようにする。

・ダンスの流れ

花を摘むしぐさ、右アガムから左アガムへの移動、歩く動作、縦一列になって前への移動、円になってダンス、前の人の腰の紐を持って円になって歩く。奉納舞踊の音楽は、ゴン・グデと呼ばれる大編成のガムランで演奏される。

ゴン・グデ [Gong Gede(名詞・芸能)]

巨大な青銅のドラや鍵板を多数用いる大編成のガムラン。王のとりしきる公の行事などに際して演奏された。デンパサールのプムチュタン宮殿(現在はホテルになっている)に1組残されている。またクルンクンからバンリへ向かう山岳地方に多数残っている。ゴン・グデの「グデ」は、「高貴な」「偉大な」という意味を持つ。おもに寺院における儀式のデワ・ヤドニャ(Dewa Yadnya)の際に奉納を目的として演奏され、ルランバタンと呼ばれる奉納楽曲のほかに、パリスやルジャン、トベンなどの演奏として使われる。

(伊原未紗)

3. 花巻市「花巻祭り」

(1) 花巻市概要

花巻市は、岩手県のほぼ中央に位置し、西側には奥羽山脈、東側には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に位置している。市内の中ほどを北上川が流れ、早池峰国定公園や花巻温泉郷県立自然公園や豊富な温泉群を有している。

また、宮沢賢治や萬鉄五郎などの先人を輩出するとともに、早池峰神楽や鹿踊りなどの郷土芸能、南部杜氏、さき織り、ホームスパン等の優れた技術が多く伝えられている。岩手県内唯一の花巻空港、東北新幹線新花巻駅や東北自動車道、東北横断自動車道など、北東北の高速交通網の結節点という恵まれた拠点性を有している。花巻市の人口(平成19年5月末現在住民登録人口)は105,350人(男50,299人、女55,051人)、世帯数は35,509世帯、面積は908.32平方キロメートルである。

市章の周辺4つのブルーは新市を構成する花巻・大迫・石鳥谷・東和の各地域と、早池峰の風、そして新市の発展を表している。中心のオレンジは、新市の安らぎと活力、市民の情熱を表している。

(三原匠子)

(2) 花巻祭りの歴史・概要

花巻祭りの歴史は古く、今からおよそ400年前にさかのぼる。花巻祭りは花巻開町の祖である北松斎(きたしょうさい)が出陣に際し観音さまをまつり、戦勝を祈願したことが始まりと伝えられている。

この観音祭りは、北松斎が死去した慶長18(1613)年以降は、松斎祭りとも呼ばれ、江戸時代を通して、稗貫・和賀二郡の祭りとして催されていた。明治の廃仏毀釈によって、観音祭りは一時中止された。その後、鳥谷崎神社の祭礼として復活した花巻祭りは、高さ15メートルの屋形山車を擁する豪快なものになった。

花巻祭りは、毎年9月の第2金・土・日曜日の3日間に行われる。しかし今年は、9月7日に花巻地方を台風が襲ったため、本来7日から9日の3日間開催のところを、8日と9日の2日間の日程に変更して開催された。幸運なことに、8日からは晴天となった。

ただパレードとは別に9月7日～9月9日間、「なはんプラザ」で開催されていた『第19回花巻郷土芸能祭』、および「花巻市民体育館」での『第33回花巻市産業まつり』は、雨には関係なく調査することができた。

(岡田普恵)

(3) 参加団体

表―3 「山車パレード（12 団体）」

	団体名	風流名
1	上町町内会	桶狭間合戦之躰
2	あさひ組祭典実行委員会	児雷也之躰
3	里川口町祭典実行委員会	一の谷鶴越えの逆落しの躰
4	東町祭典実行委員会	連獅子之躰
5	豊沢町振興会	歌舞伎十八番の内 暫の躰
6	末広町まつり協賛会	鹿島大明神鯨退治の躰
7	吹張町まつり実行委員会	敵は本能寺にあり之躰
8	駅前大通り祭典実行委員会	伝説照井沼時鐘の躰
9	花北地区山車保存会	奥州平泉源義経主従奮戦の躰
10	若葉町親交会	児雷也豪傑ものがたりの躰
11	西大通り振興会	北松斎 金沢にて漁を楽しむの躰
12	市役所まつり同好会	花巻城夜襲北松斎奮戦之躰

表―4 「神楽権現舞パレード（24 団体）」

	系統流派	団体名
1	岳系幸田	幸田神楽
2	岳系幸田	正一位安野稲荷神社清神会
3	岳系幸田	堰袋金比羅
4	岳系幸田	矢沢白山
5	岳系幸田	上駒板神楽
6	岳系幸田	田力神楽権現舞
7	岳系幸田	高木地の神
8	岳系矢沢	胡四王神楽
9	岳系矢沢	胡四王婦人神楽
10	岳系矢沢	高木小路神楽
11	岳系矢沢	下似内神楽
12	岳系矢沢	下似内宝龍権現舞
13	岳系宮野目	葛神楽
14	岳系宮野目	新山神楽
15	岳系宮野目	細屋大神楽
16	岳系羽山	羽山神楽
17	岳系更木	神明神神楽
18	大乘系	南笹間山伏神楽
19	大乘系	北笹間大乘神楽
20	円万寺系	小瀬川神楽
21	円万寺系	上根子神楽
22	岳系	太田神楽
23	岳系	浮田神楽
24	大償流	倉沢神楽

表―5 「鹿踊パレード（25 団体）」

	団体名	市町村
1	春日流上ノ山	花巻市
2	春日流鍋倉	花巻市
3	春日流湯本	花巻市
4	春日流八日市	花巻市
5	春日流八幡	花巻市
6	春日流落合	花巻市
7	南部流更木	北上市
8	行山流口内	北上市
9	皆行山流三ヶ尻	金ヶ崎町
10	富士麓行山流細野	金ヶ崎町
11	奥野流富士麓行山	奥州市
12	行山流都鳥	奥州市
13	奥山行山流餅田	奥州市
14	奥山行山流増沢	奥州市
15	金津流鶴羽衣	奥州市
16	奥山上山流歌書	奥州市
17	行山流久田	奥州市
18	奥州金津獅子躍連合会	奥州市
19	梁川金津流	奥州市
20	金津流石関	奥州市
21	仰山流笹崎	大船渡市
22	行山流小通	大船渡市
23	仰山流丑石	一関市
24	行山流高瀬	住田町
25	行山流外館	住田町

- ・神輿パレード（小学生の部より 38 団体、中学生の部より 13 団体、一般の部より 68 団体）
- ・花巻囃子踊りパレード（17 団体）（岡田普恵）

(4)－1. 風流山車（写真 9）

風流山車とは、豪華絢爛な山車が各町内から繰り出す花巻祭り屈指の呼び物である。その始まりは、花巻開町の祖である北松斎氏の時代にさかのぼる。当初は唐竹で大きな鯨をつくり、紙を張って鍋墨を塗り、これを車に乗せて曳き歩いたといわれる。

その後、いつのころからか京都祇園祭りに似たものを出すようになり、明治時代にその豪華さの絶頂に達した。その当時の屋形は高さ 15 メートルもあったという。下から見たときに見映えのするものとするため、製作には格段の手法を必要とした。この山車の前を「底ぬけ」と呼ばれる舞台形式のものが先行し、囃子がこれにつき、大勢の人夫にかつがれた屋形がゆったりと練り歩いたといわれる。大正末期になり、町に電線が張られるようになってからは現在のかたちの風流山車に移行している。その風流山車の組み方は、活花を基本としており、岩山の上部に桜の花を芯として人形と四季の花を飾り付け、仕上げられるものである。

今回の花巻まつりには、12 の団体が山車パレードに参加した。

楽譜一「山車の囃子で奏されていた太鼓のリズム」

(採譜：日吉直行)

山車リズム



* 4小節目、3・4拍目・・・「ドッコイ」と掛け声／
8小節目、3・4拍目・・・「ソーリヤ」と掛け声

(4) - 2. 神輿

山車に次ぐ花巻祭りの呼び物のひとつに、神輿パレードがある。花巻地方では、昭和の初め、町内に造り酒屋（酒造元）が多くあったことから、酒樽を利用して神輿を造り、意気盛んな若者達がこれを担ぎ、祭りを盛り立てたといわれている。これは花巻地方特有のもので、酒樽を利用したことから一般的に「樽神輿」と呼ばれ親しんできた。現在では豪華な宮神輿が主流となっているが、この昔ながらの樽神輿も登場し、祭りに欠くことのできない風物となっている。

今回の花巻祭りでは、小学生の部から一般の部まで合わせて約120団体が神輿パレードに参加した。私たちは幸運にも、藤沢町という町の神輿に参加させてもらうことができた。この藤沢町というのは、一般の部では企業や組合などが名を連ねる中、唯一町から単独で神輿を出している地域であった。若い人が多く、とても活気があるように感じた。

その神輿はとても大きく立派な神輿で、担ぐのは体力のいるものであった。途中には、大きくジグザグに練り歩くというパフォーマンスをする箇所もあった。「ワッショイ、ワッショイ」という掛け声を掛け合い、私たちは約30分間神輿を担いで練り歩いた。体力的にとっても大変であったが、「ワッショイ」という掛け声を上げていると自然と足が動き、みなと歩調を合わせて歩くことができた。また我を忘れて神輿を担ぐことができた。「祭りは参加してこそ」ということを言われ、実際に参加することができたのだが、まさしくその通りで、参加する楽しみはひと味もふた味も違った。

(増木あゆみ)

(5) 神楽権現舞 (写真7)

神楽権現舞とは、神楽の演目の中で最後に演じられる演目で、祭神の権化である獅子頭を手にして舞う。内容は、あらゆる災いを退散・調伏させ、民衆の願望である社会安穏・除災招福・五穀豊穰などを祈念する舞で、特に格式が高いものとして取り扱われている。権現とは、神の使いの聖獣の獅子としてではなく、神が仮の姿になって現れたことを指し、神の化身として扱っている。

今回の調査地である花巻地方の神楽のほとんどは、里神楽の中の獅子神楽に分類される。獅子神楽は2系統に大別され、東北地方の山伏神楽と、伊勢などの太神楽がある。花巻地方の神楽は、北上山系の最高峰早池峰山の南麓に伝承される山伏神楽を主源とし、早池

峰山の岳系が主である。この山伏神楽は、山岳信仰に基づく修験者集団によってもたらされたとされる。

現在花巻市内の神楽保存会のうち、権現舞が保存伝承されている団体は40前後あるが、この地方の郷土芸能としては最高の伝承数で、庶民の生活に密着した郷土芸能として伝承されている。

(日吉直行)

神楽権現舞で笛と踊りを担当していた女性（19才へのインタビューによると、始めたのは12才からで、小学校の卒業記念で全員花巻の伝統芸能を学んだこと、家は代々鹿踊をしているわけではないこと、笛は自分のものでパイプ製であること、練習は見・聞きして行うこと、周りの同年代は小学校から続いていた友達がもう1人いたが転校してしまったこと、今日の舞台は楽しかったし、もっとうまくになりたい、と語っていた。

(質問者：三原匠子)

(6) - 1. 鹿踊の始まりと歴史 (写真8)

鹿踊の起源についてはさまざまな説があり、特定が困難である。中でも花巻市周辺で多く知られている説は以下の2つである。

①殺されたシカのための供養説：天暦5(951)年、京都六波羅蜜寺の空也上人が諸人済度のために山居しているとき、周辺にやってくる八つ連れの鹿がおり、そのうちの一頭を猟師が射殺したので、この鹿を哀れみ弔うために始めた踊りが鹿踊である。

②春日大社と結びつけた奉納起源説：鹿踊は、奈良の春日大社の神事に由来するといわれ村の平安を祈願し、悪霊を追い払う行事が舞踊化されたものである。

以上から、鹿踊は怨霊鎮魂、精霊供養、地域の平安を祈願するための踊りとされている。また、武蔵国の清左エ門が、現在のように「一番庭」、「案山子踊り」など数多くを舞踊化し、それを全国に広めた。そして慶長2年、その舞踊は伊達藩に伝承され、そのまま稗貫郡（現在の花巻市）をはじめ多くの地方に伝承された。現在では岩手県の無形民俗文化財に指定され、貴重な古典芸術として地域の人々に親しまれている。

(6) - 2. 鹿踊の分類

岩手県内各地で踊られる鹿踊は、踊りの様式から「幕踊り系」と「太鼓踊り系」に大別される。「幕踊り系」は遠野市を南限とする県北地方に伝承され、腰に幕を下げ、その幕を動かしながら踊るという特徴がある。「太鼓踊り系」は花巻市を含む県南地方に伝承され、腹から下げた太鼓を打ち鳴らし、歌をうたいながら踊るという特徴がある。8人で踊るものが標準の体系である。

今回の花巻祭りには「太鼓踊り系」の団体ばかりが参加をしていたので、今回の調査では、「太鼓踊り系」の調査をさらに詳しく進めた。さらに、太鼓踊り系のなかでも細かく流派が分かれている。おもに花巻周辺にみられるのは「春日流」、「行山流」、「金津流」の3つの流派の鹿踊である。

「春日流」は花巻市に最も多く伝わっている流派で、「春日流落合鹿踊」を本家としている。静かな鹿の物語を演じるのが特徴である。「行山流」は最も古い流派で、「春日流」と「金津流」は、「行山流」から分派した流派と言われている。「行山流」は主に、北上市や奥州市（旧江刺市）を中心に伝承されている。「金津流」は、奥州市に本家があり、春日流に比べて躍動感のある踊りが特徴である。花

巻では1団体が継承している。

(岡田普恵)

春日流鍋倉鹿踊を担当していた27歳男性へのインタビューによると、鹿踊を始めたのは4年前で、友達の祖父に教えてもらったこと、鹿踊をやろうと思ったきっかけは、小さい頃から地元のグループの鹿踊を見てきて、自分もやってみたいと思ったこと、人前で踊れるようになるには3年以上、さらに中立(リーダー)をやるには、もっと長い年月がかかること、今回の演目では中立だけ角の大きさが違っていた理由は、中立をしていたのが中学生の男子で、子ども用の衣装を着ていたからだということであった。

(質問者: 岡田普恵)

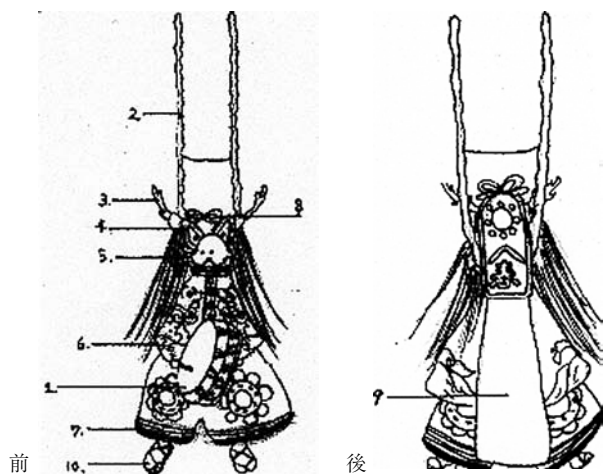
また同じ担当者である40歳代男性は、鹿踊を始めたのは24～25年前で、村で代々受け継がれていて、集落の人からやってみるように勧められたのがきっかけだったこと、練習は始めてから2、3年でやっと人前で演じられるようになるので、毎日練習をしていること、頭の部分の重さは17kgあり、かなり重いこと、太鼓のリズム習得は口承歌によって行うと語っていた。(質問者: 増木あゆみ)

以上のインタビューは、郷土芸能祭で鹿踊を披露していた人々を対象に行ったものである。このインタビューから、鹿踊が花巻の地域の幅広い年齢層の人々に身近で親しまれている民俗芸能であるということがうかがえる。

(6)－3. 太鼓踊り系鹿踊の衣装について

衣装の重さは標準で約15kgにもなるという。

- ①太鼓: 腰に斜めにつけ、2本の細いパチで叩く。
- ②腰竹(ささら): 2本の3メートル前後の細長い竹の棒に、白い紙切れを結びつけたもの。神聖なものであり、神社の神主さんが御祓いの時に使う御幣と同じもの。
- ③鹿角: 雄の鹿には本物の鹿の角がついているが、雌の鹿の角は短くて枝がない。
- ④獅子頭: 大ぶりで黒く、とても重い。鼻穴と唇は朱色、むき出しの歯は金色に光っている。
- ⑤毛采(ざい): 馬の黒い毛を使用。黒い目玉をした金色の目が尖ってついている。
- ⑥幕: 麻でできていて、上半身を覆っている。紺色の地に白や赤や黄色などの染め抜きがしてあり、流派によって柄が異なる。春日流落合市鹿踊では、竜と波。
- ⑦大口袴: 流派によって柄が異なる。たいいてい大きな紋が入っている。



図一2「春日流落合鹿踊の装束」

る。

- ⑧華鬘結び(けまんむすび): 朱色で太く大きい。
- ⑨長布(ながし): 流派によって柄が異なる。親子の絵が入っているところもある。
- ⑩白足袋にわらじ

(作画: 岡田普恵)

(6)－4. 鹿踊の流れ

ここで、鹿踊の流れを、花巻まつり1日目の鹿踊パレードに出演していた1団体の鹿踊を例にとってみる。まず、総勢8人が3列になり、後ろを向いて全員で太鼓を力強く打つところから始まる。そしてゆっくりとした足取りでステップをとり始める。突然くると振り返り、激しいステップに変わる。それに伴って太鼓もテンポを増し、激しいリズムになる。ステップと太鼓を打つタイミングは関連しており、足が地に着くときに太鼓を打ち鳴らす動きが多かった。そして集団は広がっていき、次はリーダーが真ん中で踊り出す。ササラを地面に打ちつける動きが加わり、さらに激しさが増す。顔をキョロキョロさせながら、軽快な足取りで円を描いて回る場面になり、鹿の愛嬌のようなものを見せる。そして、クライマックスは全員で力強いステップを踏み、勇壮に終わる。

このようにみると、鹿踊の中で太鼓が大きな役割を果たしていることがわかる。鹿踊のテンポやダイナミクスを決めるものであり、またリーダーが他の踊り手に合図を送るためのものでもある。さらに、踊り手自身が太鼓を打ちながら踊るというものだから、太鼓を鳴らすこと自体が身体表現の一部になっているといっている。このように鹿踊は、身体表現と音楽が一体化したものである。このように鹿踊は、身体表現と音楽が一体化したものである。このように鹿踊は、身体表現と音楽が一体化したものである。(増木あゆみ)

(6)－5. 鹿踊のストーリー(春日流)

演目は「一番庭踊」「二番庭踊」「案山子踊」「御蔵(おくら)踊」「屋形踊」「露喰(つゆばみ)踊」「綱踊」に「鉄砲踊」や「尻踊」などを加えた8種類が一般的で、これは鹿踊りの中でも豊富な演目数である。

「一番庭踊」: 鹿が庭で遊んでいる様子を表す。様々な技を繰り出すのが特徴で見所が多く、最も良く演じられる。

「案山子踊」: 山から下りて来た鹿が案山子を見て、「あれは悪い狢師かもしれない」と警戒して案山子の様子をうかがっている。案山子を取り囲んで近寄ったり遠ざかったりする様からは物語性が感じられ分かりやすい。また、案山子は子役が演じており、その愛らしさも人気のひとつである。

「綱踊」= 案山子踊の綱バージョン。綱を蛇だと勘違いした鹿が、おそろおそろ綱に近づく。(三原匠子)

4. おわりに

通年授業の『民族音楽調査論』は、計画→現地調査→整理・分析→報告書の作成、という一連の作業を終えた。本来の授業時数に、更に現地調査と報告書作成を加えるという従来の作業は今回も踏襲することとなった。報告書の作成は、担当者各自が分担執筆し、その原稿を全員で討論し、さらにティーチング・アシスタントの山田さよ子と指導教官である岩井正浩が仕上げたものである。そのため本研究報告は受講者全員の成果である。

最後に、「ガルンガン」調査にご協力いただいたバリ島の皆さん、なかでもバリ舞踊をご指導していただいた DWI PUSPAYANI 先生、アレンジや通訳を担当された中村由美子氏、バリ島芸能の情報を提供して下さった沖縄県立芸術大学梅田英春教授、バリ式結婚式に快くご招待していただいた光森史孝氏、また「花巻踊り」調査にご協力していただいた花巻市民の皆様に厚く御礼申し上げます。

●バリ島調査写真



写真1 (ネカ美術館)
「パリの生活」イ・ニョマン・ルスッ (1939～ :ウブド)
1988/カンバスに鉛筆、墨、アクリル 100×140cm



写真2「バリ舞踊レッスン風景」



写真3「若者によるケチャのクライマックス」



写真4「バリダンサーと踊る岩井正浩先生」



写真5「結婚式の参加者達」



写真6「ガルンガン 寺院参拝の男性正装」

●花巻祭り調査写真

参考文献・皆川厚一『ガムランを楽しもう』 音楽之友社 1998
花巻市ホームページ<http://www.city.hanamaki.iwate.jp/>
2007 花巻市「2007年花巻祭りパンフレット」



写真7「下似内神楽(花巻郷土芸能祭)」



写真8「鍋倉鹿踊(花巻郷土芸能祭)」



写真9「風流山車(市内パレード)」